

きょう土の発てんにつくす

— 地域の発てんにつくした泉田仲藤 —



4年（ ）番 名前（ ）

山の上にある長曾池



ゆたかな水をたくわえる長曾池

中山町には、標高874mの秦皇山しんこうざんがあります。長曾池は、その秦皇山の635mのところにあります。水面には、まわりの木の緑が美しくうつっています。

どうしてこのような山の中に、池をつかったのでしょうか。



ながそいきねんひ
長曾池記念碑

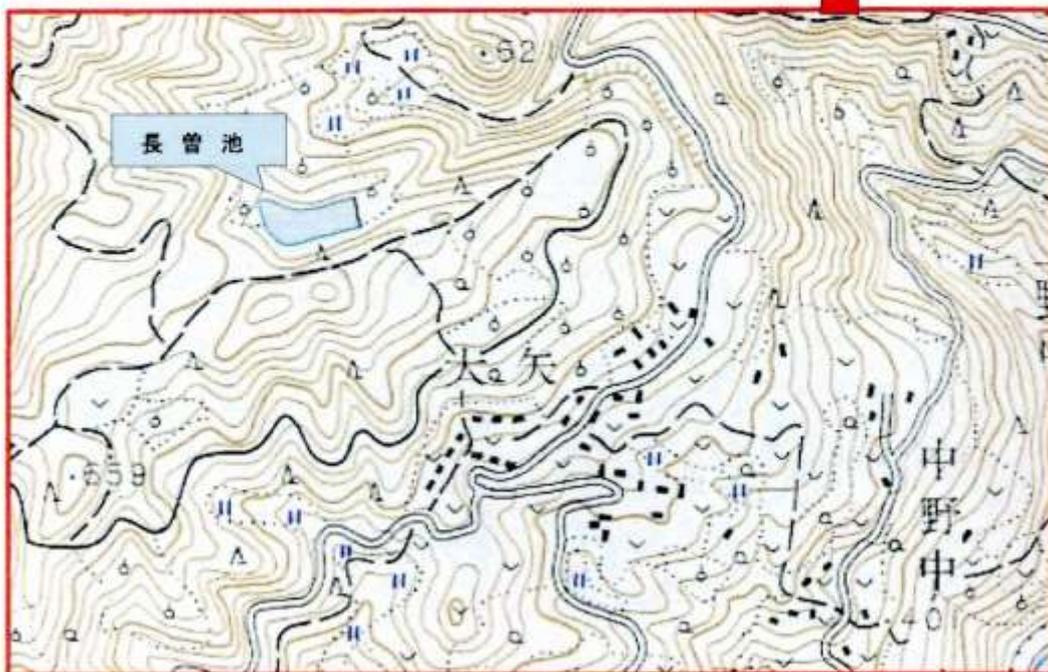
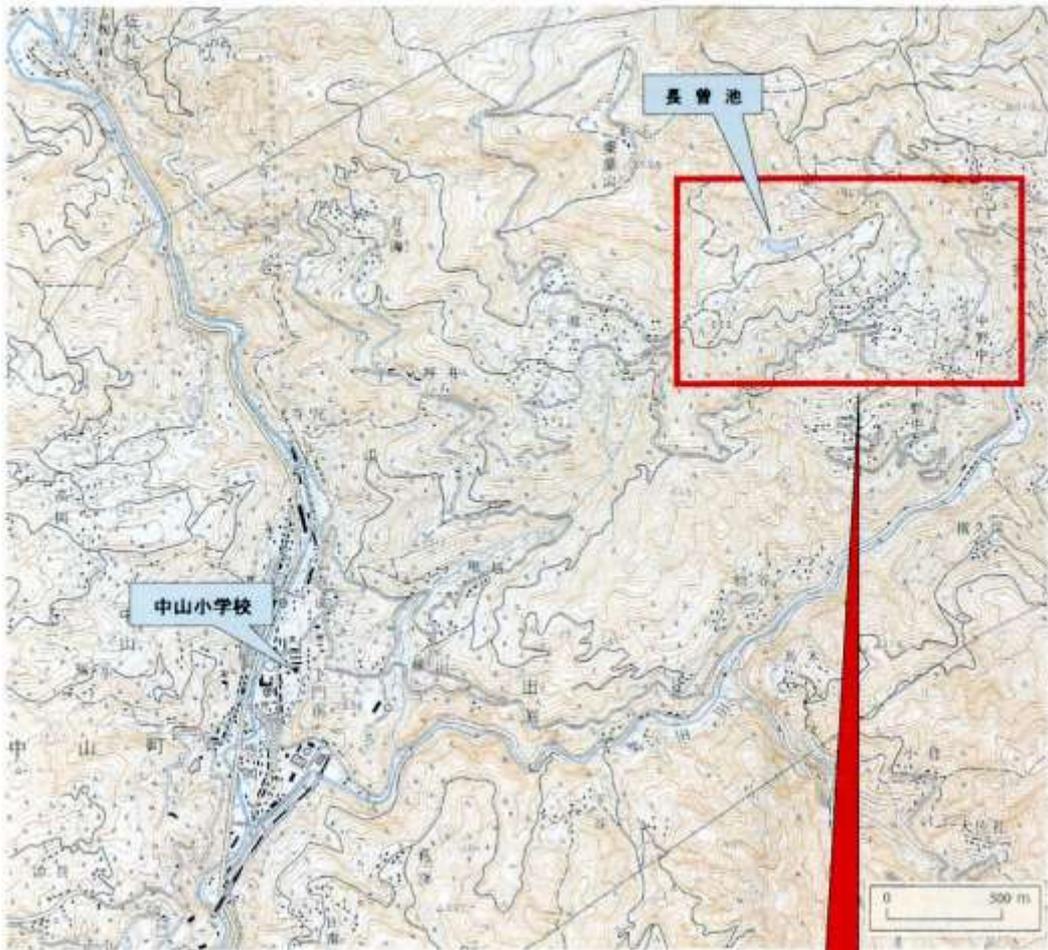


記念碑の字は、
泉田仲藤さんが
書いた字だよ。

記念碑の後ろには、長曾池が完成するまでのことや当時の工事関係者の名前が書かれていますよ。

この長曾池のほとりに、記念碑がたてられています。昔の人々の工夫や努力の様子が分かります。また、長曾池は、公園として整備され、休けい所もつくられています。

長曾池あたりの土地の様子は、どのようになっているのでしょうか。



長曾池ができるまで

長曾池ができる前の人々の暮らしは、どうだったのでしょうか。



地域の人（山岡越さん）の話

わたしたちの中山町大矢地区は、標高約500mもの高い所にあるため、水が少なく、昔から田にめぐまれませんでした。だから、米作りに苦労していたのです。農業で生活をしてきた人にとって、米の生産は大切で、かんがい排水工事の実現が長年の願いでした。

1945年（昭和20年）、食べ物が大変少ないころ、農業に対して国から助けをしようということになりました。これをきっかけに大矢地区の人たちが力を合わせて、ため池をつくってほしいと県にお願いをしたのです。

たび重なるお願いによって、1951年（昭和26年）に県の技術的な調査が行われました。その結果、地形的にも技術的にも良い条件であることが分かり、本格的な測量設計が行われました。

ちょうど同じ年の1951年（昭和26年）に私が米作競作会に参加し、愛媛県一位を獲得したこともあり、開田計画にも期待が高まりました。

長曾池の開発に取り組んだ中心人物は、大矢地区に住んでいた泉田仲藤さんです。泉田さんは長曾池をつくるため、自分の土地をむしょうでゆずってまで開発にのりだしたのです。泉田さんは、その地区の代表者として長曾池をつくってもらえるように県に願い出ました。県もこの願いを受け入れ、長曾池をつくることを決めました。

長曾池ができるまでの出来事（旧中山町・旧伊予市のあゆみ）

年	旧 中山町	旧伊予市
1905 明治38年		・郡中から中山へ行く道ができあがり、乗合馬車が走る。
1906 明治39年	・新国道51号線が中山村、出淵村 <small>いずぶちむら</small> まで開通する。	
1907 明治40年	・中山村と出淵村が合peiし、中山村となる。	
1909 明治42年		・郡中地方に電灯 <small>でんとう</small> がともる。
1911 明治44年		・郡中地方に公衆電話 <small>こうしゅうでんわ</small> が通じる。
1913 大正2年	・泉町、豊岡 <small>とんとう</small> に電灯がともる。	
1915 大正5年	・伊予自動車株式会社 <small>かぶしがいしゃ</small> の八幡浜 <small>やわたはま</small> —郡中間バス運行が開始される。	
1917 大正6年		・郡中花かつお、せいぞうが始まる。
1921 大正10年	・病院 <small>かいはつ</small> を開設 ・中山郵便局で電話交かんぎょうむが開始される。	
1925 大正14年	・中山町がたん生する。	
1929 昭和4年		・各地にバスが通じる。
1930 昭和5年		・ラジオが家庭にふえ始める。
1945 昭和20年		・太平洋戦争 <small>たいへいようせんそう</small> が終結 <small>しゅうけつ</small> する。 ・大谷池 <small>おおたにいけ</small> が完成 <small>かんせい</small> する。
1949 昭和24年	・このころまで、食料が少なく、生活にこまっていた。 ・中山に初めての公みんかんが設置 <small>せつち</small> される。	
1951 昭和26年	・大矢地区の人たちの申し出により土地の調査が始まる。	
1952 昭和27年	・大矢地区 <small>ながそとちかいりょうく</small> に長曾土地改良区が設立される。 ・長曾池の工事が始まる。	
1955 昭和30年	・長曾池が完成する。	
1956 昭和31年	・テレビ視聴 <small>しちやう</small> が始まる。	

工事の様子

工事はどのように進められたのでしょうか。

長曾池は、米作りをさかんにするために、たくさんの水を確保するのがねらいでした。工事は、1953年（昭和28年）1月18日に国や県の協力で始まりました。中山町大矢地区の人はもとより、周辺の人も加わり延3万人もの人が働きました。

人々は、土地の高さやきよりを測量し、水の量を考えて工事を進めました。今のようなブルドーザーもなく、かん単な道具しかありませんでした。人々は、くわやつるはしで土をほり、もっこで運んで山を切り開きました。

しかし、池ができるには中山町小池地区の土地があったため、地元の人との話し合いも何度かもたれました。また、道もなく杉を切りたおしての開発でしたので、長い年月がかかりました。

工事に参加した人（河田保幸さん）の話

工事には大矢地区の人だけでなく他の地域の人もたくさんきていました。働いた人の半分以上は、女の人でした。一日約200人が参加していました。

工事は、山の中できれいな道路もなく、ざい料は歩いて運んだり、馬の背中に材木を乗せて運んだりしました。

また、工事の機械もなく、すべて手作業で行ったので、とても大変でした。長曾池には、ヒューム管が28本入っていますが、一日に1本しか運べませんでした。毎日大変な作業でしたが、米を食べたいという思いで、みんなで必死にがんばりました。

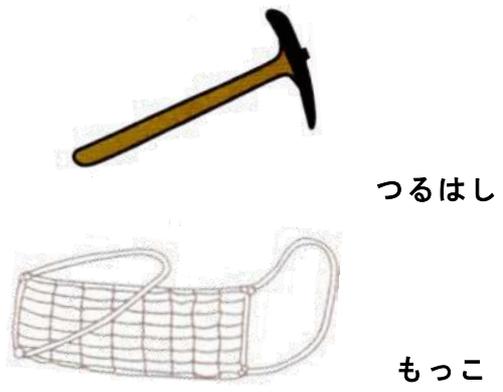
工事が完成し、池に水がたまり始めたときは、なみだが出るくらいに、とてもうれしかったです。



石を積み上げた堤

工事の様子はどうだったのでしょうか。

- 総工事費 当時のお金で270万円
- 工事期間
 - ・着工 昭和27年11月25日
 - ・完了 昭和30年5月31日
- 受益面積（水の利用できる土地）
42ha
- 働いた延人数 延30,000人



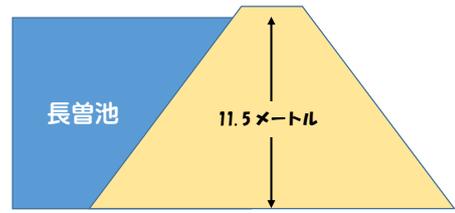
工事の様子

こうして、1955年（昭和30年）5月31日に長曾池ができあがりました。人々は、「命の水がめができた。」と言って、大変喜び合いました。

長曾池の大きさ

深さ	… 11.5 m
面積	… 7,893.6 m ²
水の量	… 42,500 t
堤の高さ	… 15.53 m
堤の長さ	… 57.94 m

長曾池の大きさ



深さ…校舎と同じくらい 広さ…運動場約2.5個分

泉田仲藤さんの年表

年	主なできごと
1900 明治33年 0才	・ 9月12日 大矢に生まれる。
1918 大正7年 18才	・ 結婚する。
1920～1930ころ 20才～30才	・ 中山町議会議員をつとめる。
1940～1950ころ 40才～50才	・ 三島神社総代 ・ 老人クラブ会長
1951～1955ころ 51才～55才	・ 長曾池土地改良区 理事長 長曾池を作ることを計画し、町や県に働きかけ、また用地をかくほすために、自分の土地をむしゅうで提供する。
1955 昭和30年 55才	・ 長曾池が完成する。
1995 平成7年 95才	・ 亡くなる。

※ 資料ていきょう：泉田保夫氏（泉田仲藤さんの孫）



泉田仲藤さん

長曾池ができたおかげで水田面積がふえ、多くの米がとれるようになり、大変うれしく思いました。また、畑では、麦やたばこを作ることができました。

大矢地区の人々にとって、この長曾池の完成は、かねてからの願いでした。手作業であるために、大変ではありましたが、多くの人たちが長曾池を完成させようと、心をひとつにし、仕事に取り組んだことによって、心のつながりができ、協力すれば何でもできるという自信ができました。

○ 調べてわかったこと

の延べ3万人もの人が働いて、できあがったんだね。



かん単な道具を使って人の力だけの工事は大変だったでしょうね。



ひろこさんたちは、調べてわかったことをノートにまとめました。

- ・65年ほど前、大矢の泉田さんを中心として、田に十分な水をひこうと長曾池を作ること考えた。
- ・泉田さんは、土地改良区の代表者として、県にねがい出た。
- ・長曾池ができたことで、田の面積がふえ、多くの米が作られるようになり、生活も豊かになってきた。
- ・今でも長曾池は、大矢だけでなく周辺の人たちの生活にめぐみをあたえている。
- ・秦皇山の開発と同時に、長曾池も整備されてきている。



